

2019.12.29

「出るも入るも守られる神」

詩篇 121

121:1 【都に上る歌。】目を上げて、わたしは山々を仰ぐ。わたしの助けはどこから来るのか。

121:2 わたしの助けは来る天地を造られた主のもとから。

121:3 どうか、主があなたを助けて足がよるめかないようにしまどろむことなく見守ってくださるよう。

121:4 見よ、イスラエルを見守る方はまどろむことなく、眠ることもない。

121:5 主はあなたを見守る方あなたを覆う陰、あなたの右にいます方。

121:6 昼、太陽はあなたを撃つことがなく夜、月もあなたを撃つことがない。

121:7 主がすべての災いを遠ざけてあなたを見守りあなたの魂を見守ってくださるよう。

121:8 あなたの出で立つのも帰るのも主が見守ってくださるよう。今も、そしてとこしえに。

+++

今年もあと数日を残すのみとなりました。今年も皆さまと一緒に礼拝を継続できたことを心から感謝しています。

今日は詩篇 121 編の中からいくつかのことを考え、今年を振り返って感謝し、来年に臨む希望を神様からいただく

時間にしたいと思います。

1) 山に向かって

この作者は山々を見つめながら自分の小ささ、弱さ、また敵の手強さなどを感じているのかもしれませんが。

しかし、彼は固く信じています。「121:2 わたしの助けは来る天地を造られた主のもとから。」と。

「私の助けは来るのだ」と彼は確信しています。これは希望をもって生きるためのとても大事な最初のステップです。

「自分がだめだと感じ、能力のなさを嘆き、だめだ、助けはない」と決めつけてしまうことが一番危険な

行為なのだと思います。「わたしの助けは来る」しかも、この山を超えるほどの偉大な「天地を造られた主なる神」から。と信じることができたら、それこそ怖いものなしです。

パウロはローマの信徒への手紙の中に「8:31 では、これらのことについて何と言ったらよいだろうか。もし神がわたしたちの味方であるならば、だれがわたしたちに敵対できますか。」と書きました。ここに絶望せずに生きるための力が隠されています。

2) 助けはくる

神を味方にして生きることができると、私達は前向きに物事を考えることができるようになってきます。

これは、人生が何でも私達の思い通りになるということではありません。むしろ、前よりも問題に多く直面し、問題を多く乗り越えることになるということかもしれません。

しかし、助けは来るのです。主なる神、天地の存在をあらしめる力ある神から。

3) 見よ

ここには、その助け主なる神をしっかりと見るようにという強調がなされています。文語訳の詩篇 121 では「視よ」という漢字が使われ、しっかりと見つめ、目を凝らして見るようにという意味が加えられています。

そして、しっかりと見ることで神の確実な助け、その見守りに気付かされるのです。

実は私達は日常的に神の見守りの下に置かれ、不思議に守られて生きています。

気づかないだけのことです。

4) 「出で立つのも帰るのも」ではなく、むしろ

「出るも入るも」

新共同訳聖書も新改訳聖書も「帰る」という言葉が用いられていますが、文語体の聖書では「8 エホバは今よりとこしへにいたるまで 汝のいづると入るとをまもりたまはん」となっていて「いづると入る」となっています。いづるとは「出る」ことです。帰るという言葉ですと、どうしても、日常的な感じ

で仕事にでかけた人が家に戻るような感じになりますが、「いづると入る」という表現ですと「生まれ出たその時から、その人が天の国に入るまで」という広がりを感じることができます。

そうです。神の守りは日常的な会社に行って、帰ってくるという程度のもではなく、生まれでてから、天の国に入るまでの間ずっと守ってくださるというのです。この地上における命のはじめから終わりまでを神は完全に愛し、守り抜いてくださいます。英語の訳では「Going out」と「Coming in」となっています。神のもとから出て、神のもとに戻り、入るといふような意味合いが含まれています。つまり全体が神の視野の中に置かれて生かされているということになります。

そして神様はそれを意志し、きっと守り抜いてくださいます。

今年も来年も。そしていのちの続く限り、その見守りは続くのです。素晴らしいことです。

今年、どんなことで神様の守りを味わいましたか？
どんなことで思わず、神様、助けて下さいと祈りましたか？

思い返し、感謝をささげましょう。

そして、新しい年に期待しましょう。

そこにも神様の見守りが必ずあるからです。

恒例のようになっていますが、ボンヘツファーの詩を紹介します。もともとは「新しい一九四五年」というタイトルの詩のようですが、一般的には「主のよき力に守られて」として知られています。獄中で迎えようとしている年末と新年を前に書かれたものです。

「新しい1945年」:

(主の善き力に守られて)

主のよき力に真実に、そして静かに取り囲まれ、不思議にも守られ慰められて、私は毎日毎日をあなた方と共に生き、そしてあなた方と共に新しい年へと歩んで行く

過ぎ去った年は私たちの心をなおも悩まし、いまの悪しき日々への重荷はさらに私たちへのしかかるだろう。

ああ、主よ。

この恐れ惑う魂に、あなたの備えて下さった救いを与えて下さい。

あなたが苦き杯を、あの苦しみの苦き杯を、なみなみとついで差し出されるなら、私たちはそれを、ためらわずに感謝して、あなたのいつくしみ深き愛の御手から受け取ります。

あなたがこの闇の中に持って来て下さったともしびを、今日こそ暖かく静かに燃やして下さい。

御心ならば、私たちが再びともに会わせて下さい。

私たちは知っている。

あなたの光が夜の闇をつらぬいて輝くことを。

静寂が今や深く私たちのまわりを包む時、共に聴こうではないか。

ひそやかに私たちの回りに広がっていく、世界の豊かな音の響きを。

主の善き力に不思議にも守られて
私たちは心安らかに来るべきものを待つ。
神は朝も夜も、また新しい日々にも
必ず確かに私たちと共にいて下さる。

.....

今年もお世話になりました。

一緒に礼拝を捧げることができたことは大きな喜びです。

すべての参加者の皆さま、奉仕者の皆さま、支援の祈りと捧げものをして下さった皆さま、心から感謝します。神様からの祝福が豊かにありますように。

新年は1月4日の礼拝が最初のMACFの礼拝です。時間は同じ10時からです。

祝福がありますように。